



TITLE:

海上保険發展史ニ關スル一異説

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 海上保険發展史ニ關スル一異説. 經濟論叢 1917, 4(6): 910-919

ISSUE DATE:

1917-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127214>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷四第

行發日一月六年六正大

論說

中壽ノ說(二).....	法學博士	財部 靜治
奢侈税ノ本質及其構造.....	法學博士	神戶 正雄
『座』ノ研究(三、完).....	文學博士	三浦 周行
東洋ニ於ケル古代ノ社會政策.....		瀧本 誠一

時事問題

船腹調節策.....	法學博士	戸田 海市
禁輸及關稅ニ依ル包圍攻撃.....	法學博士	神戶 正雄
米國ノ勞働缺乏ト日本移民.....		米田 庄太郎

雜錄

Utilityノ譯語ニ就イテ.....	法學士	小島 祐馬
海上保險發展史ニ關スル一異說.....	法學士	小島 昌太郎
山片幡桃ノ米價論.....	法學士	本庄 榮治郎
精神の活力ト年齡.....	法學博士	河上 肇
佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來.....		山本 美越乃
Ch. Boothノ死ヲ聞キテ.....	法學博士	財部 靜治

海上保險發展史ニ 關スル一異説

小島昌太郎

茲ニ海上保險發展史ニ關スル一異説ト題シテ紹介セントスル説ハれあつツト云フ人ノ説デア
ル。れあつツハ海上保險ナルモノガ社會ニ初メ
テ顯ハレタルハ第十四世紀ノ後半デアツテ、葡
萄牙王國ノ相互的強制海上保險制度ガ其最モ原
始的ナルモノデアルト云フノデアアル。此説ヲ載
セタル彼ノ著書ハ『歐洲海上保險法制史、第一
部』ト題シ、一八七〇年ノ出版ニカカリ、今ハ
絶版トナツタ程、隨分古イモノデアアルガ、併シ
此説ハ未ダ我國ニ紹介セラレテ居ナイ様デア
ルカラ本誌ノ餘白ヲ借リテ之ヲ此ニ紹介スルコト
トスル。但シ余輩ハ此説ヲ紹介スルノ機會ニ於
テ、一通リ海上保險發展ノ史的事實ニ關スル通
説及ビ之ニ對スル異説ノ主ナルモノヲ略述スル
コトハれあつツノ説ソノモノノ學問上ノ地位ヲ
正當ニ了解スルニ付イテ便宜デモアリ必要デモ

アルト思フカラ、先ツ極メテ簡單ニ之ヲ述ブル
コトトスル。

一

通説ニ從ヘバ海上保險ハ海上冒險貸借 *Bottomy; Seedarlehn* ヨリ進化發展シタモノデア
ルト云フコトニナツテキル。即チ其説ニヨレバ、
中世ノ海商國民ハ外國貿易資金融通ノ方法并ヒ
ニ海上損害轉嫁ノ方法トシテ、冒險貸借ナルモ
ノヲ行フテキタノデアアルガ、寺院法ガ利息契約
ヲ禁止シタルガ爲メ、特ニ一二三〇年法王グレ
ゴウ九世ノ禁令ノ結果、此冒險貸借契約ハ禁
止セラルルコトトナリ、資金融通ト損害轉嫁ト
ハ此時ヨリ次第ニ分離シテ、損害轉嫁ハ消費貸
借契約或ハ賣買契約ヲ假裝シテ行ハレ、更ニ一
轉シテ之ガ所謂保險契約トナツタト云フコトデ
アル。而シテ其保險トシテ發顯シタルノ時ハ第
十四世紀ノ初期デアリ、其發顯ノ地ハ伊太利ノ
諸都市、特ニ、ゼのあ、ふろれんす、びざ等デ
アルト云フ²⁾。而シテ此説ニ從ヘバ海上保險ハ冒
險貸借ヨリ進化シタモノデアルト云フノデア

1) Dr. Carl Ferdinand Reutz, Geschichte des Europäischen Seeverversicherungsrechts, Erstel Theil, (Leipzig. 1870.)

2) Dernburg, Bürgerliches Recht, VI. S. 349ff.; Manes, Versicherungswesen, 2. Aufl. S. 24ff.; Moldenhauer, Artikel „Seeverversicherung“ im Versicherungslexikon, S. 1102ff.

カラ、其最初ノ形態ハ資本主義的營利的ノモノデアツテ、資本家ガ保險者トナリ一定ノ料金ヲ受領シテ之ヲ行フタモノト見ナケレバナラス。乍併海上保險發顯ノ史的事實ニ關シテハ、(一)其發顯ノ時ト、(二)其發顯ノ地ト、(三)其發顯ノ形態トニ付イテ異説ガアル。

(一) 海上保險發顯ノ時ニ關スル異説ハ、其發顯ハ第十四世紀ノ初期ニアラズシテ、更ニ之ヨリモ後デアルト云フノデアアル。海上保險ガ第十四世紀ノ初期ニ發顯シタト云フ説ハ、何レモ當時ノ商關係書類、例ヘバ契約書、簿記帳又ハ領事事務取扱規則等ニシテ今日發見セラレタルモノニ、Signature ト云フ文字ノ記載アルヲ見テ之ヲ證據トスルノデアアル。勿論此 Signature ナル語ハ今日ノ伊太利語 *assicurare* ノ元ノ言葉デアアルカ之ニ保險ト云フ意義モナイデハナイガ、併シ引用セラルル所ノ是等ノ書類ニ於テハ未ダ此語ヲ保險ト云フ意義ニ用キタノデハナクテ寧ロ他ノ意義ニ用キタモノデアルト解釋スベキデア³⁾ル。故ニ今日發見セラレタル第十四世紀初期ノ

商關係書類ニ Signature ナル語アレバトテ、之ニヨリテ直チニ、當時既ニ保險アリタリト看做スコトハデキナイト云フノガ此説ノ大意デアアル。

(二) 發現ノ地ニ關スル異説ハ其主ナルモノニツアル。其一ハはんだ同盟加入都市ノ一ナルふらんだあノぶりゆじ(Bruges)ヲ以テ海上保險發顯ノ地トナス説デアツテ、其二ハ葡萄牙王國ヲ以テ發顯地トナス説デアアル。前説ハ Chronyk van Vlaenderen, cap. 40. S. 462 一三三〇年ぶりゆじ市住民ノ願ニヨリふらんだあノ一領主ガ該市ニ保險局(Kamer van Versekeringe)ヲ設立シ之ヲシテ一定料金ニヨリテ商品ノ海運上ノ危險ヲ引受ケシメタリト云フ記事アルニ基クノデアアル。後説ハ此ニ紹介セントスルれあつツノ説デアアル。

ぶりゆじヲ以テ海上保險發顯地トナス説ハ今日一般ニ疑ハシキモノトシテ排斥セラレテキ⁴⁾ル。其理由ハ此事實ハ孤立的デアツテ、右ノ記錄以外ニハぶりゆじ海上保險局ニ關シテハ證據トスベキ何等ノ書類ガ發見サレナイノミナラ

3) Adolf Schaube, Die wahre Bechaffenheit der Versicherung in der Entstehungszeit des Versicherungswesens. (Hildebrands Jahrb. f. N. u. S.) 1893. S. 40ff.
4) F. Martin, The History of Lloyd's and of marine Insurance in Great Britain. (London 1876) pp. 6. sgg.
5) Manes, a. a. O., S. 22.

ズ、此制度が若シ實存セシモノナラバ、當時ぶりゆじト商關係ノアリシ海商國民間ニ利用セラレ、傳承セラレタ筈デアラウガ、是等ニ付イテモ全ク少シノ證據書類モ存在シテキナイト云フニアル。⁶⁾

(三) 發顯ノ形態ニ關スル異說ハ、海上保險ノ最初ノ形態ハ營利保險即チ一定ノ保險料ヲ前收シテ引受クル保險 (Versicherung gegen Prämie) ニアラズシテ、相互保險 (auf gegenseitigkeit beruhende Versicherung) デアルト云フ說デアツテ即チ此ニ紹介セントスルれあつツノ說デアル。

以上余輩ハ海上保險發顯ノ史の事實ニ關スル通説トソノ主ナル異說トヲ略述シタカラ此ヨリれあつツノ說ノ紹介ニ移ルデアラウ。以下ハ彼ノ著『歐洲海上保險法制史』第三節乃至第五節ノ大意デアル。

二

海上保險ナルモノハ、ソガ初メテ社會ニ顯ハレシトキヨリ營利保險 (Versicherung gegen Prämie) ノ形態ヲトツタモノデアルト思フノハ大ナル誤

デアル。カクノ如キ考ハ、社會ノ一切ノ事物ハ其存在ノ最初ニ於テハ總テ不完全ナルモノデアルガ、時ヲ經ルニ從ツテ完全ナルモノトナルノデアルト云フ一般ノ原則ニ違反スル思想デアラウ。今日存在スル所ノ法の制度ハソガ社會ニ顯ハレテ實地ニ行ハレタ最初ニ於テハ、何ゾレモ皆混沌タルモノデアツテ、今日存在スル様ナ純ナル意義ハ其當初ニハ見ルコトガデキナカッタ。然ルニソレガ其後進化發展シテ次第今日見ル様ナモノトナッタノデアル。我營利の海上保險ニ於テモ此事柄ハ正ニ同様デアル。

抑モ今日ノ海上保險ハ非常ニ精密ナル思想ニ基クモノデアツテ、船舶積荷等ガ海難ニ遭遇スルノ危險ニハ或ル中數價格 mittleren Preis (又ハ平均價格 Durchschnittspreis) ガアリ、此價格ヲ豫メ支拂ヒ置ケバ、之ニヨツテ財産上ノ損害ハ之ヲ免ルコトガデキルモノデアルト云フ思想ニ基クノデアル。而シテ此中數價格ナルモノヲ營利保險ニ應用スルガ爲メニハ、海上危險海上災害ナルモノハ、盲目的ナル偶然ニ支配サレテ

6) Beatz, a. a. O., S. 38-39.

キルノデハナクテ、一定ノ規律即チ大數ノ法則ニ支配サレテキルノデアルト云フ確信ガ必要デアル。而シテ此確信ハ、長年月ニ亘ル所ノ觀察——一定ノ方面ニ向ヒ出航シタル船舶ノ中幾許ノモノガ沈没シ幾許ノモノガ損害ヲ受ケタカ其割合ニ關スル永年ノ觀察——ガアリテ始メテ之ニ達スルコトヲ得ルノデアル。又此觀察ハ海難ニ關スルアラユル場合ニ付イテナサルベキモノデ、季節、船舶ノ構造、其運用法、乗組員、戰時ト平時、海賊ニ關スル事柄等ヲ考慮セネバナラス。カクノ如キ觀察ニ付イテハ古代ノ國民、特ニ羅馬人等ハ何等ノ注意ヲ拂ハナカッタ、從ツテ彼等ノ間ニ營利的海上保險ガ存在シ得ナカッタノハ當然デアル。

カクノ如ク海上危險海上災害ナルモノニ一定ノ規律ガ存在スルト云フ確信ハ營利保險ノ實行ニ必要缺クベカラザルモノデアルカラ、如何ナル國民ガ最初ニ營利海上保險ヲ行ヒシヤノ問題ヲ解決スルガ爲メニハ、如何ナル國民ガ最初ニカカル觀察ヲナシ、カカル確信ニ到達シタモノ

デアルカ、其時ハイツデ、其事情ハ如何ナルモノデアツタカラ研究セネバナラス。

吾々ハ海上保險ナル思想ガ最初ニ歷史上ノ事實トシテ顯ハレタソノ時ノ形態如何ニ付イテハ些少ノ史的證據ヲモ持ツテ居ナイ。乍併、前ニ述ベタルガ如ク、論理上ヨリ推斷シテ海上保險ハ最初極メテ不完全ナ組織ヲモツタ相互ノモノデアツタガ、此形態コリ——而シテ此形態ノミヨリ——時ヲ經テ次第ニ營利保險トナツタノデアルコトヲ知ルコトガデキル。此ノコトハ實ニ海上保險ニ限ツタ事柄デナク、他ノ保險モ亦同一ノ進化ヲ經タノデアル。今日ニ於テモ、危險ノ數値ニ付イテ信據スベキ標準ヲ有セザルガ爲メ、已ムヲ得ズ、組織上幾多ノ缺點ヲ有スル相互組織ヲトツテ居ル保險ハ澤山存在スル、故ニ海上保險ノ發顯ヲ知ルガ爲メニハ、先ツ相互組織ニテ海上保險ヲ行フタコトニ關スル歷史上ノ事實ヲ發見セネバナラスノデアルガ、幸ニシテ吾々ハ之ニ關シテ疑ナキ積極的ノ史的證據ヲ手ニ入レルコトガデキタ。

印度ニ至ル航路ノ發見ト云フ世界歷史上ノ大事件ニ先ツコト凡ソ一世紀餘リモ以前ノコトデアル、葡萄牙ノ首府ニ於テ相互海上保險會社ガ設立セラレ、之ト共ニ一ノ法令ガ發布セラレタ。此法令ハふえるなんと王ノ治世(一三六七—一三八三)ニ出デタモノナルコトハ分ツテキルガ、其年月日ハ不明デアル。此法令ノ内容ハふゑるぢなんど・ろべすト云フ葡萄牙ノ史家ガ一四三四年ニ著ハシタふゑるなんと王紀中ニ記載サレテキルノデアツテ之ヲ世ニ紹介シタルハしゑいふあノ功業デアル。此法令ハ右ノろべすノ著書ニヨリテ僅ニ其内容ヲ窺ヒ知ルコトヲ得ルノミデアツテ之ヲ載スル所ノ獨立ノ古文書ハ傳ハツテキナイ。嘗テばるでぢすノ指圖ニ基キ葡萄牙ノ古記録ハ周ク詮索セラレタガ何等獲ル所ハナカツタ。

乍併吾々ハ此ろべすノ記録ヲ以テ不眞實ナルモノデアルト考フルコトハデキナイ。ソレハろべす其人ノ著作ハ此問題以外ノ事柄ニ關シテハ充分信ヲ置クニ足ルモノデアリ、且ツ彼ノ生涯

ハ此法令ノ發布ト相接近シテオツテ、之ニ付イテハ何等ノ欺瞞ヲナスコトモデキナイ地位ニアルカラデアル。勿論、彼ヨリ後ノ史家ハ此法令ニ付イテ何等ノ記載ヲナスモノナク、又葡萄牙ノ諸港ニ於テ營業ヲナセシ此會社、及ヒ、其他之ニ關係アル事項ニ付イテモ全然何等記載スルモノナキハ一見甚タ奇異ナル事柄デアツテ、右ノ事實ニ對シ多少疑ヲ挿ムノ餘地アルガ如ク見ユレドモ、此疑ハ次ノ理由ニヨリテ之ヲ解クコトガデキルデアラウ。即チろべすノ時代ニハ既ニ營利的保險ガ弘ク行ハル様ニナリ、不完全ナル相互の保險ハ之ガ爲メ全ク壓倒セラレテ仕舞フタ、ソコデ此時代ニハふゑるなんと法令ハ最早實際ニ其用ナク、只歴史的價值ヲ有スルニ過ギナカツタノデアル。ろべすノ時代ニ於テ既ニ然リ。後代ノ史家ガ既ニ實用ヲ失ヒ社會ヨリ消失タル相互保險并ビ之ニ關スルふゑるなんと法令ニ付イテ何等記載セザリシハ怪ムニ足りナイデハナイカ。以下此法令ト此保險トニ關スルろべすノ記録ヲ其儘紹介スル。

- 7) Chronia d'el Rei D. Fernando por Fernão Lopes, Collecção de livros ineditos de historia portugueza publicados de ordem da Academia real de sciencias de Lisboa. 1. IV. N. II. cap. 91. S. 320 ff ニササム (Reatz ニヨル)
 8) Schäfer, Geschichte von Portugal. (1839) Bd. 2. S. 103 ff. u. Geschichte von Spanien (1861) Bd. 3. S. 471. Not. 2 (Reatz ニヨル)
 9) Pardessus.

三

此等ノ特權（ソノ何タルカニ關シテハ後ニ略説スル）ノ結果トシテ船舶ノ建造及ヒ買入盛ニ行ハレ、國家泰平ニ國威四方ニ輝キ人民ノ富益益増加シタカラふえるなど王ハ此船舶増加ノ趨勢ノ衰ヘザランコトヲ切ニ希望シタ。ソコデ彼ハ船舶所有者ヲ保護シ、海難ニ因リテ彼等ノ事業ノ蹉跌スルコトナカランガ爲メニ國內ノ全船主ヨリ成ル一ノ會社ヲ設立シ、之ヲシテ各船主ガ海難ノ結果貧窮ニ陷ルヲ救ハシムルコトトシタ。此ノ事業ハ次ノ如クニシテ行ハレタ。先ツ海事専門家ヲシテ全國船舶ノ船名錄ヲ作ラシメコレニハ五十噸以上ニシテリすばん、をばるとヲ始メ其他諸港ニ現ニ存在スル船舶ハ勿論、將來是等諸港ニ屬スベキ船舶ヲ一切記錄シ、且ソノ建造價格又ハ買入價格、ソノ現價、進水年月日等ヲモ記入セシメタ。而シテ船舶ニ關シテ獲タル利益ハ從前ト等シク盡ク船主及ヒ船員ノ所得デアルガ、往航及ヒ復航ニ於テ積荷其他ノ運送ヨリ獲タル全利益ノ百分二ハ此會社ノ金庫

ニ支拂ハネバナラス。金庫ハリすばんトをばるとトノ二ヶ所ニ設ケラレ理事ノ管理ニ屬スルノデアル。此理事ハ國王ニヨリテ任命セラレ、船舶ガ沈沒其他ノ原因ニヨリ滅失シタル場合ニ之ニ代ル新船ノ購買價格ヲ評價シ、其他會社ノ利益ヲ代表スルコトヲ職務トスル。船舶ガ碇泊中又ハ航海中暴風其他ノ原因ニヨリ沈沒シ又ハ商業上ノ目的ヲ以テ航行中敵ニ沒取セラレタルトキハ當該船舶ニ關スル損害ハ他ノ船主全部ニ於テ分擔スベキモノデアル。此場合ニハ次ノ規則ニヨル。即チ、先ツ被害船舶ノ損害價額ヲ査定シ、金庫ノ資力ヲ以テ其價額ヲ支出シ得ルトキハ金庫ヨリ之ヲ支出スル。若シ金庫ノ資力ガ不足ナラバ、當時現存ノ船舶全部ノ價額ヲ査定シテ之ト被害船舶ノ價額トノ比例ニ從ヒ各船主ヨリ分擔支出セシムル。是等ノ場合ニ於ケル評價ハ凡テ國王ニヨリテ特ニ此目的ノ爲メニ任命サレタル其道ノ老練家ニヨリテナサルノデアアル。此評價并ヒニ賦課ニ關スル決定ハ絕對的ノモノデアツテ、何人モ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ、

且ツ支拂ヲ承諾セザル場合ニハ、強制執行ニヨリテ取立テラル。カクテ各船主ヨリ徴收シタル資金ハ船舶ヲ喪失シタル船主ニ下附セラレ、之ヲ以テ新ニ船舶ヲ建造シ又ハ買入ルルニ充テシム。船舶ガ商業ノ目的ヲ以テ航海セル場合ニ暴風又ハ其他ノ原因ニヨリ、漏損其他ノ損傷ヲ生ジタルトキニ、之ガ修繕ニ要スル費用ガ修繕後ノ價額ノ二分一又ハ三分一以内ナルトキハ其修繕費用ハ當該船主ノ負擔デアル。從フテ此場合ニハ他ノ一般ノ船主ハ何等贖金ノ義務ガナイ。乍併、其修繕費用ガ巨額ニシテ修繕後ノ價額ト同等又ハソレ以上ヲ要スベキトキハ、其損傷ガ船員ノ責ニ歸スベキ事由又ハ其惡行ニ因ラザル限り公正ナル評價ニ從ヒテ、船舶ニ付キテモ船具ニ付イテモ、之ガ填補ヲ受クルコトガデキル。此場合ニハ船舶ニ付イテハ事故發生當時ノ價額ヲ標準トシ、船具等ニ付イテハ老練家ノ査定額ヲ標準トシ、之ヨリ損傷船舶及船具等ヲ賣却シテ得ラルベキ價額ヲ控除シタルモノヲ支給セラル。但シ豫メ保險ヲ受クルコトナクシテ (scm

regembo pimerio seguranca) 敵國ト通商シタル場合ニ敵國ノ爲メニ沒取セラレ又ハ途中沈沒シタルトキハ、他ノ船主ハ何等贖金ノ義務ハナイ。此ニ所謂保險トハ今日ノ言葉ヲ以テ言ヘバ耐航能力ノ保證トモ言フベキモノニシテ舊々ノ所謂保險ニアラズ、後文參照。船主又ハ船長ガ他船ニ損害ヲ加ヘ、又ハ他國ニ於テ罰金刑ニ處セラルベキ罪ヲ犯シ、其爲メ告訴セラレ、船舶ヲソノ抵當トシテ差押ヘラレタル場合ニ、ソレガ船舶ノ適當ナル運用ヨリ生ジ、正當防衛ノ爲メニ行ヒ、若シクハ國王ノ爲メニ盡シ、國家ノ公益ノ爲メニナス目的ヲ以テナサレタルニアラザレバ、他ノ船主ハ何等贖金又ハ救済ノ義務ハナイ。

カクノ如ク此制度ニヨリテ船主ハ船舶沈沒スルモ船舶購入資金ノ支給ヲ受クルコトガデキルカラ、動モスレバ必要ナル注意ヲ施サズ、錨、網其他ノ船具ヲ缺キ、又武器、乗組員其他波浪ヤ外敵ニ對スル防護手段ヲ完備セザルコト屢アツタ。ソレ故ニ此弊害ヲ除ク爲メ船舶ニ對スル検査ヲ行ヒ、且ツ船具目錄及乗組員名簿ヲ調成セシメテ、損害發生ノ場合ソレガ當該船舶ガ航

海ニ必要ナル條件ヲ具備セザルガ爲ニ生ジタル
カ否カラ知ルノ資料トナシ。之ニヨリテ船主ガ
支給ヲ受クベキヤ否ヤヲ決定スルコトトシタ。
若シモ、一時ニ多數ノ船舶ガ沈没若シクハ損傷
シテ、一般船主ガ其損害ヲ一時ニ分擔醗金セシ
メラルナラバ、彼等モ亦其負擔ニ耐エズシテ
貧窮ニ陥ルベキ場合ニハ、先ツ半額ヲ醗金セシ
メ爾餘ノ半額ニ對シテハ一定ノ猶豫ガ與ヘラ
ル。國王ガ隣國又ハ他ノ國民ト戰爭ヲ開始シ、
船主ガ國土防衛ノ爲メニ其所有船舶ヲ機裝シテ征
途ニ上リタルトキ、ソノ遠征ノ途中之ヲ喪失シ
タル場合ニハ、ソノ損害ハ國家公益ノ爲メニ生
ジタルモノナルガ故ニ、之ニ對シテハ國庫ノ資
金ヲ以テ填補セラル。而シテ此場合ニハ先ツ王
室財産ヨリ支辨セラルルコトヲ原則トシ、其支
給ヲ受ケタル船主ハ直チニ之ヲ以テ新船ヲ建造
シ又ハ購入セザバナラヌ。而シテ船舶ガ商品ヲ
積載シテ貿易ニ從事シ、交戰關係其他ニヨリ利
益ヲ擧ゲ得タルトキハ、其利益ハ通常ノ場合ノ
如ク船主及船員ニ屬スルモノデアルケレドモ、

此場合ニ於テハ船主ハ自己ニ歸スベキモノノ只
半分ノミヲ處分スルコトヲ得、他ノ半分ハ國王
ヘノ税金ヲ控除シテ之ヲ公益ノ爲メ會社ノ金庫
ニ拂込マネバナラヌ。尙當時存在セシ十二隻ノ
國王所有ノ船舶ハ皆此會社關係ノ中ニ組入レラ
レ他ノ民有船舶ト同一ニ取扱ハレ、其積荷、乘組
員、船具等モ何等特制ノ取扱ヲ受クルコトハナ
イ。若シ將來國王ガソノ所有船舶此關係ヨリ離
脱セシメンコトヲ欲スルコトアラバ、之ヲ離脱
セシムベシト雖モ、ソノ場合ニハ王室所有船舶ハ
何等會社ノ利益ニ與ルコトヲ得ズ、且ツ之ガ爲
メ一般船主ハ何等影響セラルルコトナクシテ、
從前ト同一ノ關係ヲ繼續スベキモノデアル。現
ニ船舶ヲ所有シテ此會社關係ニ入レル人々、并
ビニ將來船舶ヲ建造シ又ハ購入シテ此關係ニ入
リ來ル人々ハ總テ同一ノ特權ト利益トヲ享受ス
ルコトガデキル。又會社加入者タルノ免許狀ヲ
有スル人々ハ一切衡平法裁判所ノ支配ヲ免除セ
ラル。王ハ更ニ此法令實施ノ局ニ當ル役人ニ命
スルニ、彼等ガ船舶ニ乗組員ヲ指定スルニ付キ

テハ周到ナル注意ヲ拂フベキコトヲ以テシ、又船長ニハ其職務ノ實行不可能トナルニアラザレバ、其船舶ヲ見捨ツルコトヲ得ザル旨ヲ命ジタ。王¹⁰又¹¹ろほ・まるち¹²す、及ヒびんざろ・ベれず・かねるらす、ノ二人ヲ此會社ノ理事ニ任命シ、之ニ一人ノ書記ヲ附ケテ收支簿記計算ノ任ニ當ラシメ會社萬般ノ事務ヲ管掌スベキコトヲ命ジタ。金庫ハ三箇ノ鍵ヲ有スル函ニ藏メテ、管理セラレ前記三人ガ各自此鍵ノ一ヲ有スルコトトシタ。會社ノ全收支計算ハ實直ニシテ信用ヲ有スル人二人之ヲ監査スルノデアル。書記ハ年額三十りぶら理事ハ年額五十りぶらノ手當ヲ金庫ヨリ受クル。王ハ更ニ全國ノ裁判所ニ命シテ理事ノ發スル總テノ命令ハ速ニ之ヲ實行セシメ之ニ違背スルモノハ何人ト雖モ一定ノ嚴刑ニ處セラルベキモノトシタ。カクテ此制度ハ葡萄牙王國一般ニ行ハレタノデアル。

四

此ろべすノ記事ニヨレバ、ふゑるなんど法令ニヨリテ實行セラレタル海上保險ハ相互組織ノ

モノデアツテ、且ツ船主ニ對シ加入ノ義務ヲ強制シタモノデアルコト明デアル。ふゑるなんど王ハ何故ニカカル制度ヲ實施スルニ至リタルカト云フニ、之ハ次ノ事情ニヨルノデアル。即チ王ハ葡萄牙ノ外國貿易ヲ隆盛ナラシメンガ爲メニ、船主ニ幾多ノ特權ヲ與ヘテ之ヲ保護獎勵シタ。其特權ノ主ナルモノハ、船舶建造ノ爲メニハ無償ニテ王有森林ノ木材ヲ下附シ、鐵、其他造船材料ノ輸入關稅ヲ免除シ、外國船舶ノ輸入稅ヲ引上ゲ、自國建造船舶ガ初航海ヲナス場合ニハ之レニ積載シタル貨物ノ輸出稅ヲ免除シ、初航海ノ歸航ニ於テ輸入スル貨物ニハ其輸入稅ノ半額ヲ免除スル等デアル。是等ノ特種賦與ノ結果外國貿易及ヒ海運業ハ非常ナル發達ヲ遂グルニ至ツタガ、又其一面ニハ航海ノ頻繁ナルニ從ヒ海難事故モ増加シ、富有ナル船主ニシテ倒産スルモノモ少クナカツタカラ、之ガ救濟ノ必要ハ益切實トナツタ。而シテ船主ノ救濟、海運業ノ保護ハ國富増進ノ爲メニ缺クベカラザル事柄デアルカラ、ソコデふゑるなんど王ガ上述ノ

10) Lopo martijns.

11) Gonçalo Perez Canellas.

12) 1 libra = £ 1.

制度ヲ實施シタルノデアル。此制度ハカクノ如ク葡萄牙王國商業政策ノ一部トシテ行ハレタモノデアルカラ外國人及外國船舶ハ此制度ノ恩惠ニ浴スルコトヲ得ザリシハ勿論デアル。

此ふゑるなんどノ法令ハ海上保險法ノ最古ノ淵源デアルバカリデハナク、又保險 Seguranga ナル名詞ヲ用キタ最初ノモノデアル。即チ前掲るべすノ文中「豫メ保險ヲ受クルコトナクシテ」 "sem receber o primeiro seguranga" ト云フノ文言ガ保險 (Seguranga = Versicherung) ナル語ノ起源デアル。勿論、此ノ Seguranga ナル文字ハ最初吾々ガ今日謂フ所ノ保險ナル意義ニ用キタモノデナクテ、當該官署ガ船舶及其機装ヲ検査シ其耐航能力ヲ保證スルト云フ意義ニ用キタノデアルガ、右ノ強制保險制度ニ於テハ此耐航保證ハ船主ガ會社金庫ヨリ給付ヲ受クルニ付イテ必要條件デアツタカラ後遂ニ保險ナル意義ニ變化シタルデアル。

此制度ハ之ヨリモ更ニ進歩シタル營業保險制度ガ隣國ヨリ輸入セラルルニ及ンデ幾許モナク

廢絶シタ。乍併此制度實施中ニ得タル經驗、即チ海上事故ナルモノハ盲目的ナル偶然ニ支配セラルモノニアラズシテ、其發生ニハ一定ノ規律ガアルト云フコト、從ツテ海上ニ浮ベル全財産ト其損害トノ間ニハ一定ノ關係ガアルト云フコトノ經驗ハ反ツテ營利的保險ノ發生ヲ促シタ所ノ最モ重大ナル原因デアルト云ハネバナラス。

此相互の強制海上保險ノ制度ハ葡萄牙王國ヲ以テ最初ノ誕生地トスルカ又ハ他國ニ存在セシモノヲふゑるなんど王ガ模倣シタルモノデアルカハ全ク不明デアルガ、然シ之ニヨリテ見ルモ、海上保險ナルモノガ社會ニ顯ハレタ最初ノ形態ハ營利保險ニアラズシテ相互保險ナルコトハ明デアラウ。彼ノ有名ナル一四三五年ノばあせろな海法ニ於テモ此ふゑるなんど法令ノ著シキ影響ヲ認ムルコトガデキ、ばあせろなノ商人ハ最初保險ナルモノヲ葡萄牙ヨリ學ビ、葡萄牙ト同様ノ制度ヲ採用シタモノデナカラウカト思ハル節ガ甚タ多イノデアル。